



「特別な場所としての図書館」

秋田県教育委員会教育長 安田 浩幸



タイトルに「図書館」という言葉の入った小説は数多くあるが、皆さんなら何を思い浮かべるだろうか。若い人であれば、有川浩の『図書館戦争シリーズ』かもしれない。ちょうど今から二十年前、二〇〇六年二月に刊行された。その後、アニメにもなり実写化もされた。全編、図書館を舞台に展開されるストーリーは確かに面白く、シリーズを一気に読破した人も多いことだろう。

一方で、古い人間である私は『図書館奇譚』を真っ先に思い出す。村上春樹の初期の短編で、一九八三年に出版された彼の二冊目の短編集『カンガルー日和』に収録されている。図書館といえば、読書や調べ物あるいは考え事をする場で、静かな時間が流れる空間というイメージだが、『図書館戦争』も『図書館奇譚』もそれとはかけ離れている。前者はSFであり後者はファンタジーだ。『図書館奇譚』はのちに『ふしぎな図書館』と改題され絵本として出版されている。ネタバレになるが、『図書館奇譚』の地下にある牢屋に閉じ込められた主人公が、羊男なる者から「君はのこぎりで頭を切られちゃうんだよ。そして脳みそをちゅうちゅう吸われてしまうんだ」と告げられるシーンなどは、絵本でありながらホラーの一面もある。

前置きが長くなったが『図書館奇譚』を紹介したのは理由がある。作品の冒頭に、村上春樹らしい言い回しで図書館が描かれているからだ。「図書館はともしんとしていた。本が音を全部吸いとってしまったのだ。それでは本に吸い取られた音はいったいどうなるのだろうか？ もちろんどうもならない。要するに音が消えたのではなく、空気の振動が吸い取られただけなのだ。それでは本に吸い取られた振動はいったいどうなるのだろうか？ 振動はただ単に消え失せただけなのだ。振動はどうせいつか消える。なぜならこの世界に永久運動は存在しないからだ。永久運動は永久に存在しない。」二十代の頃に読んだ短編小説の冒頭に綴られた「本が音を吸いとる」という描写は、私に大きなインパクトを与えた。

以来、図書館に足を踏み入れて、誰もが息を潜めるような、あるいはページをめくる音さえもかき消されるような音のない空間に身を置いた時に、この表現が感覚として蘇ってくる。話は変わるが、図書館の地下に牢屋があるというので思い出したのが県立図書館の書庫である。何年か前に館長に書庫を案内してもらったことがある。館長室や閲覧室があるフロアーから階下を下りたためか地下にあると思ってしまったが、よく考えるとスロープを上って二階の閲覧室に行ったのだから、書庫は一階ということになる。巨大な空間に書架が整然と並び、電灯の光が色とりどりの背表紙を照らしている。地下室と勘違いしてもおかしくない雰囲気だ。学校図書館の書庫しか知らなかった私にとっては、書籍の海に飲み込まれたような気分です。圧倒されたことを記憶している。

県立図書館では、昨年十一月一日「県民読書の日」に「めぐめる図書館見学ツアー」を行った。ツアーイベントの前半は「めぐめる書庫」と題して書庫を見学し、後半は「めぐめる書庫」として「思い出の本探し」と「書庫出納体験」のどちらかのコースを選択するというものだ。参加された方の感想には、「本のおいがいなあとと思った。膨大な所蔵資料と状態の良さ、並んでいる様子にとってもびっくりした」などとあり、本好きな人にとっては素晴らしい経験だったに違いない。図書館に足繁く通っている人でも、普段は入ることのできない書庫を巡り歩くことは、まさに冒険しているような気分なのだと思う。今年も行おうということなので、興味のある方は参加していただきたい。

『図書館戦争』の中で、「本を守る」、「本を読む自由を守る」という会話がたびたび出てくる。県立図書館の閲覧室は、利用しやすいように書架が配置され、様々なコーナーも設けられており、書庫もあわせると百万冊を超える蔵書を守ってくれている。そんな空間の中で、利用している方々が思い思いの書籍を手に取り、穏やかな表情でページをめくる様子を見ていると、まさに本を読む自由を守ってくれていると実感できる。本を愛する県民が気軽に足を運べる場所、そして、その一人一人にとって特別な場所として、県立図書館がこれからも存在することを願っている。

図書館をもっと便利に～データベースのご案内～

図書館では、図書や雑誌、視聴覚資料の閲覧・貸出しだけでなく、所蔵されている資料や情報を活用して様々な調べ物を行うことができます。そこで役立つツールのひとつがデータベースです。

当館では、新聞や法律、ビジネスなどに関する8つのデータベースを提供しています。通常は有料で登録が必要ですが、図書館では誰でも無料で利用することができます（検索結果の印刷可能 A4サイズのみ 30円/枚）。今回はその中から3つのデータベースをご紹介します。

秋田魁新報 さきがけデータベース

秋田魁新報の記事の検索・閲覧ができるデータベースです。平成6（1994）年1月以降の記事タイトルと全文の検索が可能です。キーワードから関連記事を探すことができるため、調べ物の手がかりを得るためのツールとして便利です。写真や紙面イメージ、一部記事に関しては収録がありませんが、当館ではマイクロフィルムや縮刷版、原紙を所蔵していますので、あわせてご活用ください。明治33（1900）年1月から平成11（1999）年3月9日までの記事については当館のデジタルアーカイブから見出しの検索が可能です。

Mpac（エムパック）マーケティング情報パック

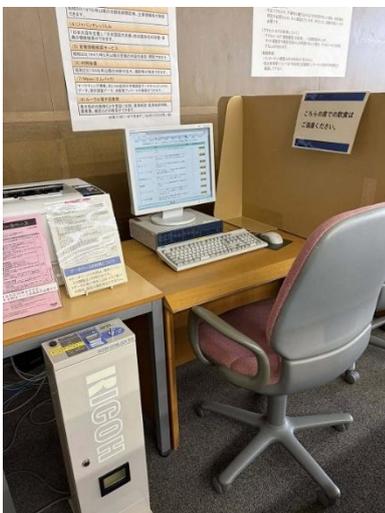
富士経済グループの市場調査を中心とした、マーケティングに必要な情報を総合的に検索できるデータベースです。約2,000品目のメーカーシェア、市場規模推移などの市場調査データやドラッグストアPOSデータ、都道府県データ、家計調査、消費者アンケートデータなどが調査できます。これらは横断検索も可能であり、市場のトレンドの把握にも役立ちます。最新のデータに基づいた信頼性の高い情報を迅速に検索できますので、ビジネス関連の調べ物にぜひご活用ください。

ルーラル電子図書館

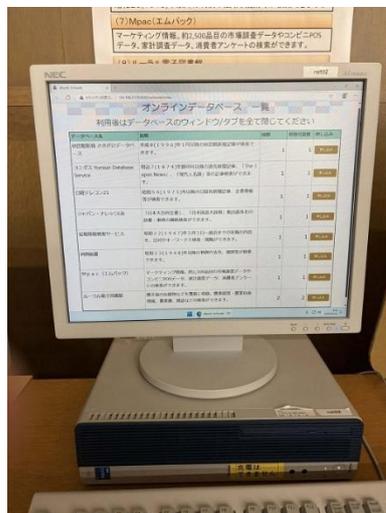
農山漁村文化協会の出版物を収録しているデータベースで、食と農に関する総合的な情報を調べることができます。用語集のほか、農業経営や農業技術情報に関係する資料の検索・閲覧が可能です。全文検索や収録資料別の検索ができ、作物の加工法や調理法などを調べる際に便利です。

また、「しらべ学習館」という子供向けの食農教育コンテンツでは、自由研究や育て学習に役立つ情報を調べることができます。例えば、「畑で昆虫を観察しよう」や「ドングリのなる木をさがそう」といった特集ページがあり、調べながら楽しく学ぶことができます。

このように、データベースを利用することで、図書や雑誌よりも新しい情報を膨大な量のコンテンツから手軽に入手することができます。使い方や検索方法についてはカウンターに気軽にお声がけください。



データベース利用席
(閲覧室のカウンター近くにありますが)



データベース利用端末



当館で利用できるデータベース一覧
はこちらのQRコードからどうぞ

Topics ~県立図書館の事業やイベントなどの紹介~

県民読書の日関連事業「めぐる・めくる書庫見学ツアー」

11月1日(土)、県民読書の日関連事業として「めぐる・めくる書庫見学ツアー」を開催しました。

「めぐる書庫」の部では、1階と4階の書庫を案内しました。書庫の広さと資料の多さに驚かれる方、書画軸等の貴重資料や郷土資料を食い入るようにご覧になる方が印象的でした。

「めくる書庫」の部では、「書庫出納体験コース」と「思い出の本探しコース」のいずれかを選び、資料探索を体験していただきました。幼い頃の思い出が詰まった本と再会し、大切そうにページをめくっている方の姿が心に残っています。

図書館の役割を理解していただきたいという思いで実施した企画でしたが、人と本をつなぐこと、人と図書館をつなぐことの喜びを、参加者の皆様から教えていただいたような県民読書の日になりました。



床から天井まで本で埋まった書架の間を巡る参加者

令和7年度図書館セミナー「老後の安心は“備え”で決まる～50代から始める終活～」



講師の山内繁序氏

11月25日(火)、図書館セミナー「老後の安心は“備え”で決まる～50代から始める終活～」を開催しました。

講師に、山内行政書士事務所代表の山内繁序氏を迎え、元気なうちに始める相

続対策や認知症になる前の備えを取り上げました。

具体的な手立てとして、見守り契約、財産管理契約、遺言書、任意後見契約、家族信託契約、死後事務委任契約などを取り上げ、それぞれのメリット・デメリット、親族がいる場合といない場合

の備え方などについて解説していただきました。

終活は家族の安心・安全を守る準備でもあることに気づき、個人や家族に応じた多様な備えを学ぶ機会となりました。



セミナーの様子

近代美術館との連携展示「四季を描く～近代美術館のコレクションから～」



展示ポスター(福田豊四郎「田園抄村童12ヶ月」)

12月11日(木)から1月20日(火)まで、近代美術館との連携展示「四季を描く～近代美術館のコレクションから～」を開催しました。近代美術館のコレクションから「四季」をテーマにした作品23点を展示しました。また当館の関連資料を展示しました。

小坂町出身の福田豊四郎が描いた「田園抄村童12ヶ月」は豊四郎の脳裏に浮かぶふるさとの1年を描きだした作品です。1月は凧揚げに興じる子どもたち、2月はかまくらの中に集う子どもたちの姿、6月は田植えをする田んぼの近くの嬰詰めで寝かされている赤ん坊など、当時の様相そのままに生き生きと描かれています。展示を鑑賞した方の中には、自身の幼少期の思い出と重なったという声も聞かれました。



さまざまな四季の様子を描いた絵画の展示

Pick up ~各チームからの話題~

図書資料チーム

郷土資料コーナー展示

「クマを知る」「内館牧子氏追悼展示」

昨年はクマの市街地への出没や人的被害が過去最多を上回るペースで推移し、私たちの生活にも深刻な影響を与えました。当館では、「クマを知る」というテーマで、令和7年11月13日から12月2日まで図書展示を行いました。クマの生態を正しく知り、その対策に役立つよう、関連する図書を展示したほか、県発行のリーフレットも提供しました。

また、秋田市出身の脚本家・作家、内館牧子さんが令和7年12月17日に逝去されたことから、令和8年1月8日から2月3日まで、追悼展示を行いました。訃報を伝える新聞記事を合わせて掲示したところ、じっくりとご覧になっていく方が多くいらっしゃいました。

今後も時事や話題になった出来事に合わせ、郷土資料を活用した展示を行ってまいります。



「クマを知る」



「内館牧子氏追悼展示」

情報チーム・サービスチーム

マイクロフィルム複写サービスの再開について



場所は2階閲覧室の利用者用インターネットの隣です

県立図書館の取組の大きな柱の一つである「資料の保存」のため、館内では様々な方法を用いていますが、マイクロフィルムの利活用もそのうちの一つです。新聞紙は薄く破損しやすいため、マイクロフィルム化して提供することで新聞原紙の保存を図っています。このマイクロフィルムの内容を複写するフィルムプ

リナーは、当館では故障のため長らく使用できずにいましたが、この度機器を更新し利用を再開いたしました。休止中は大変ご不便をおかけいたしました。新しくなったフィルムプリンターをぜひご利用ください。

企画・広報チーム

公式SNSリニューアルのお知らせ

3月から、SNSをFacebookからInstagramにリニューアルいたしました。新着本のお知らせやイベント情報など、図書館の日常を写真とともにお届けします。

「次はどの本を借りようかな？」と迷った時のヒントもいっぱいです。

Facebookを愛読されていた皆様も、初めての方も、ぜひフォローして図書館をより身近に楽しくご利用ください。



Instagramははじめました！

Event ~イベント・催し物のお知らせ~

■令和8年度第1回特別展示 秋田県立博物館との連携展示 「秋田の漆器—多様な技とその歩み—」



この展示では、能代春慶、川連漆器、紫塗、本荘塗など、秋田における漆文化の歴史と多様な技法と表現をもつ秋田の漆器について、その特徴と背景を紹介します。

【期日】 4月9日(木)～5月19日(火)
【時間】 午前9時30分～午後5時
【会場】 2階特別展示室
【料金】 無料